

株主通信

第2四半期決算のご報告

[2024年3月期]

2023年4月1日～2023年9月30日

証券コード：1961



カイトキをカタチに。

私たちは、空気、水、電気、搬送などの
社会インフラを支える「カイトキ」を
「カタチ」にする会社。

人とともに、地球の「カイトキ」も「カタチ」
にしています。

たとえば、再生可能エネルギーも
取り入れて、脱炭素社会の実現に
取り組んでいます。

「カイトキ」な暮らしがずっと続く
未来のために。

三機工業は新しい「カイトキ」のための
アイデアを、次々と「カタチ」にして
いきます。



CM公開中!

詳細は当社HPを
ご覧ください。



三機工業 カイトキをカタチに 検索



代表取締役社長
石田 博一

株主の皆さまにおかれましては、日頃より当社グループへの厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。2024年3月期第2四半期決算のご報告にあたり一言ご挨拶させていただきます。

当社グループは現在、長期ビジョン“Century 2025”の最終フェーズと位置付ける中期経営計画[“Century 2025”Phase3]を推進中です。本計画においては、これまで進めてきた「質」と「信頼」を高める取り組みを継続しつつ、ステークホルダーの皆さまからもっと「選ばれる」会社を実現すべく、「社会のサステナビリティへの貢献」「働き方改革の加速」「次世代に向けた投資」に注力しています。

計画2年目の2024年3月期は、前期に減収減益となった業績を回復させ、成長に向けて着実に歩みを進めていく1年間です。上半期は、豊富な繰越工事が順調に推移したことにより増収増益を達成し、業績が堅調に推移したことから、通期業績は、期初予想を上方修正いたしました。

今後とも当社グループ事業へのご理解とともに、長期のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023年12月

上半期のご報告と通期の見通し

当上半期の業績は、受注高が前年同期比で64億円増加し、1,253億円を確保するとともに、売上高も前年同期の735億円から894億円へ増加しました。利益面は、全てのセグメントにおいて改善し、営業利益以下の各段階利益でも前年同期の損失計上から改善しました。

営業状況を事業別に振り返りますと、建築設備事業は、受注高は減少しましたが高水準を維持しており、前期からの繰越工事が順調に進捗したことなどにより増収増益となりました。機械システム事業も同様に受注高が減少しましたが、繰越工事の進捗により増収となり、セグメント損失は改善しました。環境システム事業は、大型案件の獲得により受注高が大幅に増加し、売上高は前年同期並みながらも、工事採算性が向上したこ

とで、セグメント損失の改善が進みました。

当上半期末の繰越受注高は、当期首から359億円増加し、2,243億円と豊富な仕事量を確保しています。

このように上半期の業績が順調に推移したことから、通期業績は期初予想を上方修正し、受注高2,100億円(前期比8.1%減)、売上高2,150億円(同12.6%増)、営業利益95億円(同75.6%増)、経常利益100億円(同60.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益67億円(同41.0%増)を見込んでいます。

中間配当は、期初の予定通り1株当たり35円とさせていただきます。期末配当についても同額の実施を予定しており、年間配当額は合わせて同70円となる見通しです。

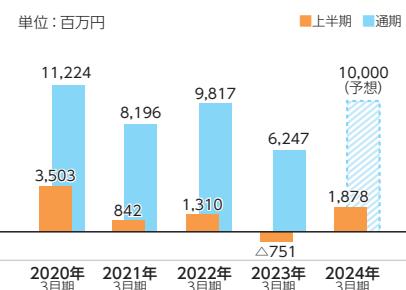
受注高



売上高



経常損益



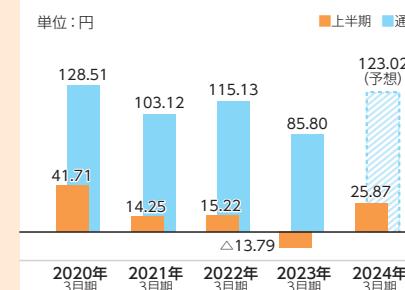
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損益



1株当たり純資産額



1株当たり四半期(当期)純損益



三機工業グループのDX戦略

当社は、グループ全体の業務改革の推進およびお客さま向けの新サービスの創造をデジタル技術の活用で主導するため、2023年4月に「デジタル改革推進本部」を新設し、全社横断的な業務改革を推進しています。

2023年10月にはSANKI DXビジョン「[知]の“Co-Creation (共創サイクル) Cycle”で全グループ社員が“Connected (つながる) 組織になる!」を策定しました。今後は3つの改革施策である「業務プロセス改革」「デジタル基盤の構築」「デジタル人材の育成・強化」を通して、全グループ社員が「つながる」組織となる変革を促し、これからの100年をつくってまいります。

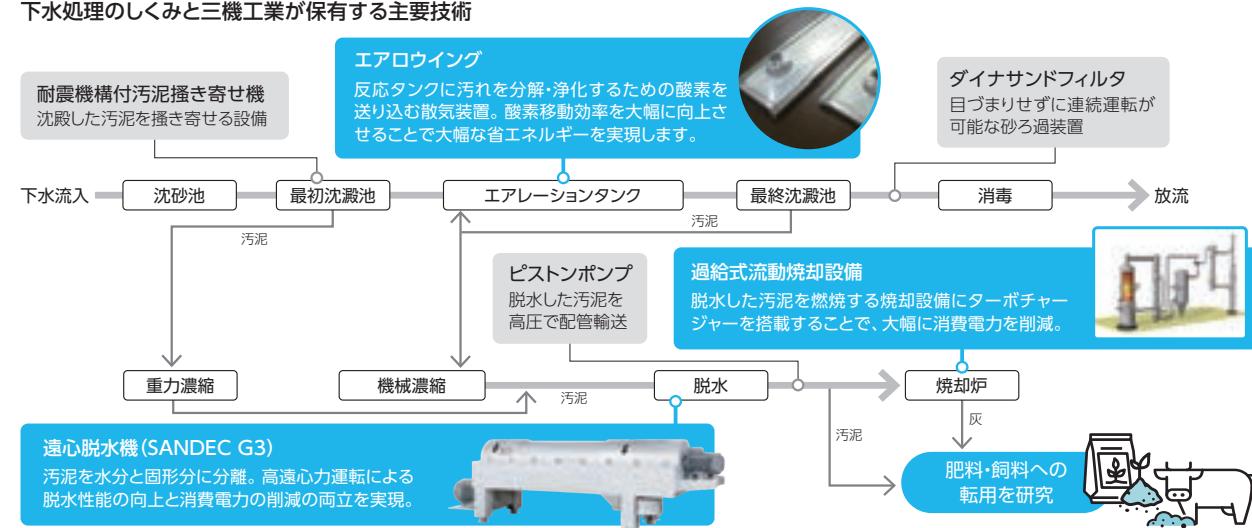


下水処理施設における技術貢献

当社グループは、排水の浄化や再利用等の技術を結集した高度な水処理システムの提供を通じて、快適な生活環境の向上を支えてきました。近年、持続可能な社会の形成に向け、膨大なエネルギーを必要とする下水処理施設における省エネルギー化が強く求められています。また国内で人口減少が進む中、下水処理場への流入水量の減少に追従して、処理コスト・規模を縮減するダウンサイジングも大きな課題です。

当社グループは長年培った総合エンジニアリングを駆使し、下水処理におけるさまざまな処理工程で技術貢献を果たしています。

下水処理のしくみと三機工業が保有する主要技術



Case 1

オーストラリアの大規模下水処理場にて省エネルギー型散気装置を受注



2023年2月、グループ会社のアクアコンサルト社が、オーストラリア・メルボルン西部下水処理場において、下水処理のばっ気[®]に用いられる省エネルギー型散気装置5,700台を受注しました。

※水中の有機物や窒素を処理する微生物に酸素を供給すること

Case 2

下水汚泥を飼料化・肥料化する技術を開発

2023年3月、当社が共同研究に参加する「下水汚泥焼却灰の低コスト肥料化技術」が、国土交通省の下水道革新的技術実証事業のFS調査に採択されました。簡便な手法で下水汚泥焼却灰を粒状肥料にすることで、低コスト・省エネルギー化を実現します。



焼却灰を用いた粒状肥料

地域の医療機能を支える高度な空調技術を提供

山形県立新庄病院

山形県新庄市と周辺7町村から成る最上地域で、中核病院として機能する山形県立新庄病院は、施設の老朽化・狭小化を受け、診療環境の改善に向けて全面移転改築工事を実施し、2023年10月より開院しました。特定建設工事の共同企業体として空調設備の施工を担当した当社は、これまで培ってきた医療施設の設備技術を集約し、先進的な機能を提供しました。

空調システムは、外気処理空調機で温度調整した新鮮な空気を送り、施設内を常に陽圧化した上で、各エリア・各室の役割や特性に合わせ、熱負荷を取り除いています。

手術室や集中治療室、無菌室、分娩室など、高い清浄度が求められる空間には、HEPA フィルターを内蔵したクリーンファンコイルユニットを設置。特に無菌室は「ISOクラス6」の清浄度を実現し、重症患者に対応できる環境を構築しました。陰圧と陽圧の切り替えが可能な分娩室は、感染対策としても有効な設備となっています。

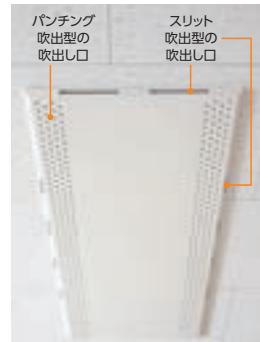
患者が長時間滞在する人工透析室には、当社独自開発の「MEDIFORT®(メディフォート)」を導入。下面をパンチング



▲山形県立新庄病院の外観

吹出型、側面をスリット吹出型とすることで、ベッドの周辺を囲い込むように気流を供給し、人体に不快感を与えず、柔らかな輻射熱で冷温感をもたらします。

当社は、これからも医療の現場に求められる高度な空調技術を追求し、地域住民の方々から信頼され、安心して利用される病院の構築に貢献してまいります。



▲「MEDIFORT®(メディフォート)」の吹出し口

現場担当者の声



左から順に東北支店 建築設備技術部 山田清隆、伊藤光裕、青山工管株式会社 剣持友則

今回の施工では、現場が寒冷地のため、凍結防止対策を施しました。例えば外調機は、機器内の空気温度を測定し、低温の場合はコイル内の冷温水の流量を多くするといった調整を、自動制御でおこなうしくみになっています。また、冷却塔の配管などには、凍結防止ヒーターを巻きました。さらに、積雪に対しては、屋上に設置した機器の架台を1m程度高くし、上部にはフードを取り付けるといった対策をおこなっています。また施工の管理工程などにおいてDX(デジタルトランスフォーメーション)化も試みました。いろいろな課題を見出すことができ、今後の施工に生かしていきたいと思っています。

VOICE

災害に強く、ハイグレードなビジネス拠点を構築

日本生命熊本ビル

日本生命保険相互会社は2023年3月、「日本生命熊本ビル」を熊本市の中心エリアに新築しました。当社は、同ビル全館の電気設備を施工し、災害発生時においてもオフィス機能を維持できるハイグレードなビジネス拠点づくりを支えました。

BCP(事業継続計画)対応において必須となる電力供給ルートの多層化は、2回線受電を採用しました。本線の停電時は、別の変電所からの予備電源線で電力を供給し、万一2回線とも停電した場合は、屋上に設置した非常用発電機の稼働により、最大72時間の電力供給が可能です。

また同ビルは、地震の揺れが免震層から上部躯体に直接伝わらない構造となっているため、免震層の設備施工では、高圧ケーブルの長さには余裕を持たせ、基礎部に接する部分をキャスター付きの台に載せることで揺れに対応するなど、ケーブル損傷を防ぐ工夫を施しました。

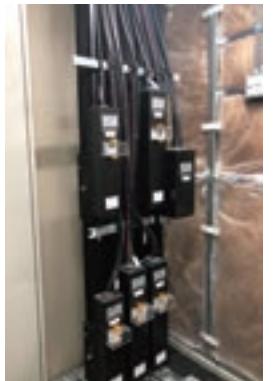
今回の施工では、省力化を図るための技術提案を積極的に



▲日本生命熊本ビルの外観

おこないました。その代表的な例が、バスダクトを用いた幹線設備の施工です。板状の導体が組み込まれたバスダクトをブロックのようにつなぎ合わせ、躯体工事とともに下から積み上げながら幹線設備を構築する方法により、施工の効率化と工期短縮を実現しました。

今後もBCP対応に配慮した、災害に強いオフィスビルづくりに取り組みでまいります。



▲幹線設備を構築するために用いたバスダクト

現場担当者の声



九州支店 建築設備技術2部 橋口卓朗

施工現場が熊本市の中心地で、近隣には商業施設やホテル、住宅が多いエリアであったため、騒音防止や部材などの飛散防止を徹底しました。また、搬入作業においては、ビルが幹線道路沿いにあり、路面電車も走っている状況で、渋滞を招くことがないように、綿密な計画を立て実施しました。特に大型クレーンでの機器の搬入に関しては、協力会社と何度も打ち合わせを重ね、細心の注意を払いました。これからも周辺の環境に配慮した施工を心掛け、地域の方たちに長く親しまれる施設の建設に携わりたいと思います。

VOICE

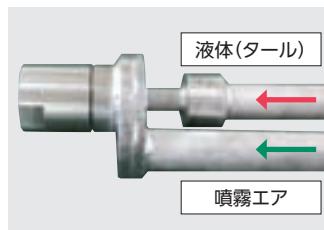
技術紹介

当社技術の「タール燃料を利用した排ガス処理装置」が「日本産業機械工業会会長賞」を受賞

当社は、一般社団法人日本産業機械工業会の第49回優秀環境装置審査において「日本産業機械工業会会長賞」を受賞しました。

この賞は、環境保全技術の研究・開発や優秀な環境装置の普及の促進を図ることを目的に、環境装置を独創性、性能、経済性、将来性等の観点から評価し贈られる賞です。今回、当社が日工株式会社と共同開発した「タール燃料を利用した排ガス処理装置」が受賞しました。

本装置は木質バイオマス発電所のガス化炉で発生するガスから分離された有害成分を無害化する装置として開発されました。現在、NKCながいグリーンパワー（山形県長井市）の木質バイオマスガス化発電施設に導入されています。

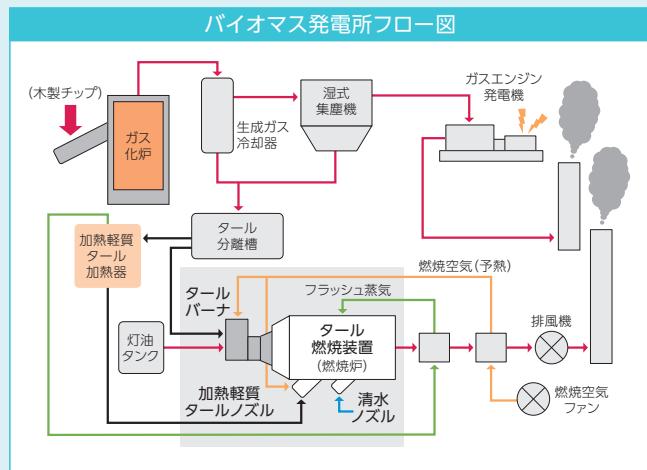


特徴

バイオマスガス化発電所内で発生する大量のタールは、一般的に廃棄物処理されますが、本装置では発生したタールを燃料として利用し、それを熱源として設備内で発生する有害ガスを燃焼することで無害化します。

NKCながいグリーンパワーでは、バーナを2基搭載することで、下記3点を実現できました。

- ① 2段燃焼による排気ガスの安定的な無害化
- ② タールの燃料利用による化石燃料の削減
- ③ 産業廃棄物として扱っていたタール含有水の処分費の削減



連結財務データ Consolidated Financial Data

より詳しいIR情報はこちら
<https://www.sanki.co.jp/ir>

三機工業 検索

連結貸借対照表の概要

単位：百万円

科目	前期末 (2023年3月31日現在)	当第2四半期末 (2023年9月30日現在)
流動資産	115,512	109,562
固定資産	56,793	62,030
資産合計	172,305	171,592
流動負債	69,649	63,126
固定負債	11,742	13,927
負債合計	81,392	77,053
純資産合計	90,913	94,538
負債純資産合計	172,305	171,592

キャッシュ・フローの状況

単位：百万円

科目	前第2四半期 (累計) (2022年4月1日から2022年9月30日まで)	当第2四半期 (累計) (2023年4月1日から2023年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,201	9,402
投資活動によるキャッシュ・フロー	216	△612
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,668	△2,930
現金及び現金同等物の四半期末残高	40,238	30,939

株式の状況 (2023年9月30日現在)

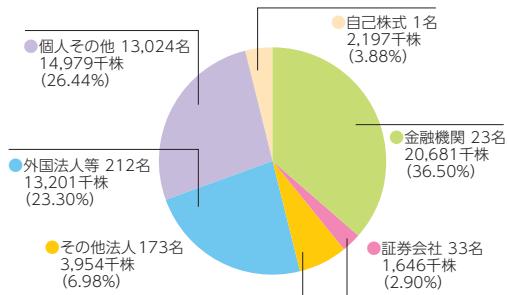
発行可能株式総数	192,945,000株
発行済株式総数	56,661,156株
株主数	13,466名

大株主 (2023年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,171	11.33
明治安田生命保険相互会社	5,290	9.71
三機共栄会	3,142	5.77
大樹生命保険株式会社	3,123	5.74
日本生命保険相互会社	2,324	4.27
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,319	4.26
三機工業従業員持株会	1,495	2.75
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー 505001	1,309	2.40
ジェーピーモルガンチェースバンク 380684	909	1.67
MSIP CLIENT SECURITIES	866	1.59

(注) 当社は自己株式2,197千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。また、持株比率は自己株式を除いて計算しております。

所有者別株式分布状況 (2023年9月30日現在)



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めております。

公告掲載方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載いたします。(当社ホームページ <https://www.sanki.co.jp/>に掲載します。)

単元株式数 100株

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く)で行っております。

「配当金領収証」による中間配当金のお支払いについて 第100期中間配当金は、「中間配当金領収証」により、払渡し期間内(2023年12月8日から2024年1月9日まで)にお受け取りください。

上場株式配当等の支払いに関するお知らせ 「配当計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

会社概要

会社名 三機工業株式会社
英文社名 SANKI ENGINEERING CO. LTD
創立 1925年4月22日
資本金 81億518万円(2023年9月30日現在)
事業内容 建築設備事業、プラント設備事業、不動産事業
従業員数 連結 2,686名 個別 2,133名(2023年9月30日現在)

事業所一覧 (2023年9月30日現在)

支社 3ヶ所
支店 15ヶ所
総合研修研究施設 1ヶ所
工場 1ヶ所

連結子会社 (2023年9月30日現在)

三機テクノサポート株式会社
三機産業設備株式会社
三機化工建設株式会社
三機環境サービス株式会社
三機パートナーズ株式会社
三机建筑工程(上海)有限公司(中国)
タイ三機エンジニアリング&コンストラクション社(タイ)
アクアコンサルト社(オーストラリア)



役員 (2023年9月30日現在)

○取締役および監査役

代表取締役会長 長谷川 勉
代表取締役社長 石田 博一
取締役 三石 栄司
工藤 正之
飯嶋 和明
川辺 善生
山本 幸央
柏倉 和彦
河野 圭志
松田 明彦
梅田 珠実
齊藤 一男
舘 邦彦
藤田 昇三
跡見 裕
江頭 敏明

○執行役員

専務執行役員 三石 栄司
常務執行役員 工藤 正之
飯嶋 和明
山中 庸詳
川辺 善生
勝野 耕治
波多野 宏行
新保 順一
泉 和男
太田 伸祐
門脇 公夫
成瀬 安計
本川 忠行
中村 諭史
野口 哲
岩崎 恭士
岩井 良博
寺崎 毅史
砂田 直人
山崎 泰弘
奥野 竜久
浜坂 順一
梅沢 昭仁
中川 勇人
清水 哲
濱本 聖次
五十嵐 一雄
花淵 公一
藤江 茂樹
五十嵐 孝之
川口 淳二
高橋 正直
橋本 直樹
塚根 隆行
古谷 伸之

○常勤監査役

○監査役